日本SOD研究会報

特集

丹羽療法 治療レポート

血液のがん

飲酒、喫煙も継続が命取り

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住　所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
http://www.sod-jpn.org/sod

今回は、最近増えている症状として丹羽先生より〝血液のがん〟というテーマを提示していただきました。

土佐清水病院に入院している患者さんの実に1割が、この血液のがんの患者さんだという事実。

その実態とはどのようなものなのでしょう。

血液のがん、と聞いてまっ先に出てくる病名は「白血病」ではないでしょうか。この白血病は、異常な白血球が骨髄のなかで繁殖するために正常な血液を作る能力が阻害され、赤血球、血小板等が減少していきます。そのため、赤血球の減少による貧血、正常な白血球の減少による感染症、血小板減少による出血などが起こったりします。また、白血病細胞が血液に乗って全身の臓器に入り込み、その臓器の働きを阻害し、さまざまな症状を起こし、生命をも脅かします。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

――最近、血液のがんが増えてきているとおっしゃっていますが、具体的にはどのようながんなのでしょうか？

「とくに最近多いのは、骨髄異形性症候群。骨髄で血液を作っている細胞の増殖がうまく進まなくて途中で次々と死んでいくために、貧血や白血球減少、血小板減少などの症状が現れる病気ですね。最近は男性の高齢者に増えている」

――どうして増えているのでしょうか。

「それはもう、環境汚染が大きな原因でしょう。環境汚染物質で体がやられると、どういうところがやられるかと言うと、体の中でい

ちばん活発な細胞がやられる。それはどこかというと、何億という細胞が血を作っている骨髄であり、精子を作っている細胞。昔は男性の不妊症なんかなかった。ところが大気汚染で男性の無精子症がものすごく増えている」

――血液がうまく作れなくなる病気として、先の骨髄異形性症候群の他にはどのようなものがあるのでしょうか。

「骨髄異形性症候群が進行していくと急性白血病になるものもある。いわゆる血液のがんやね。これは細胞がだめになった白血球が異常に増え続ける。もうひとつは再生不良性貧血。これは、血液を作る造血細胞に異常が起こり、全ての血液が減少してしまう病気。いずれにしても血液が細胞で作られなくなる。そうなると、貧血を起こして、それが進行すると死んでしまう。もしくは横ばいでなんとか生き延びるかのどちらかやね」

――怖いですね。

「学生時代からずっとやっている実験的にがんを作る方法がある。うさぎの耳を持ってきて、コールタールで擦るんだよ。コールタールというのは発がん性物質を多量に含んだものの代表格やから、それをうさぎの耳に擦り込むわけ。そうすると翌日、腫れてかさぶたができている。そこに再度コールタールを擦り付ける。そして翌朝、また肉が盛り上がって腫れている。そこに擦り付ける。この作業を一日も休まず365日繰り返す。そうするとどうなると思う？　360日目くらいになると、ある日、突然、盛り上がりがお化けみたいにボーンと大きくなる。これが皮膚がんなんだ。これがウサギの耳のコールタール発がん実験。それと同じように、骨髄異形性症候群になり、骨髄で白血球がどんどん減っていくと、増やそう増やそうという力が毎日あるから、ウサギの耳と同じ現象が起きて、ボーンと異常に白血球が増えて、白血病になる。骨髄異形性症候群は、血液がそのままどんどん減っていって死んでしまう人と、反作用で白血病になってしまうのとがある」

――がんのメカニズムなんですね。

「そうやね。昔は骨髄がやられて死んでしまうか、反作用によって出てくる白血病はあったけど、割合としてはものすごく少なかった。原因はみんな熱冷ましなどの薬。そんなものでなるのかと言うけど、敏感な人、弱い人は時々なるんですよ。逆に言えば、昔は熱冷ましや痛み止めくらいしか強い薬がなかった。それが最近は環境汚染からくるものだから、うちの病院の入院患者、常時1割はこれや。昔はほとんどいなかったのにね。今の環境汚染の害は痛み止めや熱冷ましなんかとは桁が違う」

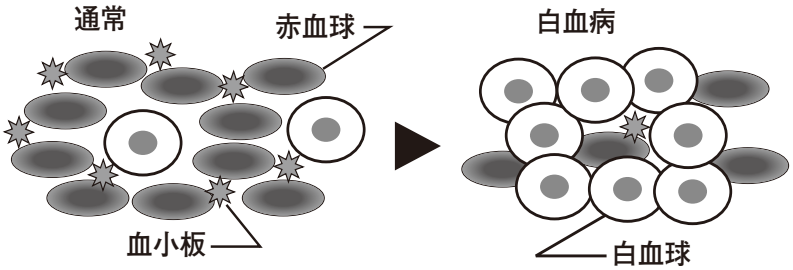
――と言うことは、今の時代は誰でも血液のがんになる可能性があると言うことですか？

「そうやね。いちばんの予防はＳＯＤを飲むこと。環境汚染は精子や骨髄をも痛める。だからＳＯＤを飲んで防ぎなさいと。そうすれば骨髄異形性症候群にもならないし、白血病にもならない。ウサギの実験で分かるように、とにかく、**定期的な刺激がいけない**。ウサギは発がん性物質のコールタールを塗り続けること。**人間は活性酸**

白血病の原因

- 放射線
- 化学物質（ベンゼン、トルエン等）
- 薬剤（抗がん剤）
- ウイルス（HTLV-I、EB ウイルス等）

国立がんセンターによる



白血病に罹患すると、血液中の白血球の数が著しく増加もしくは減少する。一方、赤血球や血小板の数が減少するので貧血等の自覚症状が現れることもある。自覚症状がなくても、献血時の検査によって白血球数の異常増減が見つかることがある。

慢性的な環境汚染は発病率を高めている

素。例えば、ブラックのコーヒーを一日に5、6杯、毎日欠かさず飲めば胃がんになる。若いお姉ちゃんの胃がんはたいていこれが原因やね。コーヒー中毒。どうしてもコーヒーはやめられないと言うなら、インスタントにすればいい。あれのほうが害が少ない。同様に、アルコールもそう。飲んべえは飲みたいだけ飲んでもいい。その代わり、必ず週に一回は休肝日を作ること。一日でも休めば元に戻るから。継続しないことが大事」

――なってしまったらどうしましょう？

「そうしたら、もう、丹羽療法。抗がん剤をやったって血液は余計に減るだけ」

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
丹羽メディカル研究所
☎ 0120(731)175
もしくは
日本SOD研究会
☎ 03(5787)3498
まで　お電話ください。

『病気にならない生き方』
～その2～
病気の根源は食事、食品にあった

前号でご紹介したアメリカのアルバート・アインシュタイン医科大学外科教授の新谷弘実先生の本**「病気にならない生き方」**。

世界で初めて開腹手術をすることなく内視鏡でポリープを切除することに成功した胃腸のオーソリティ。その新谷教授は、いまも臨床医として数多くの患者さんと接しています。そして、その中から現代医療に対する疑問や、常識とされてきた食事、食品が実は病気の根源だったことなど、数多くの真実を追求してきたのです。

「医学は日々進歩しているのに、なぜ病気で苦しむ人は減らないのだろう」

という疑問から何十年もの調査の結果、

「どのような食品をどのくらい摂り、どのような生活習慣を持っているかと言うことが、その人の胃相、腸相（注・人相になぞらえた先生の造語）、さらには健康状態と密接に結びついていることがわかってきました」と言います。そして、**「これまで医療機関では、糖尿病等の食事制限を必要とする一部の病気では食事指導が行われてきましたが、それはあくまでも病気をそれ以上悪化させないためのものにすぎません。病気にならないための食事指導、健康に長生きするための生活習慣指導は、医療の盲点と言っていいほど見過ごされてきた部分です」**

医療の盲点から病気になるメカニズムまで食事と重要なつながりがあると言います。

「本来、人間の体というのは、病気

にならないように、何重もの防御システムや免疫システムに守られています。ですから、過度に不自然なことさえしなければ、多少のことがあっても病気にならないはずなのです。その本来病気にならないようになっている私たちの体を、病気にしてしまっている最大の原因は、長期にわたって少しずつ蓄積された不自然な食事と不自然な生活習慣にあります。多くの人は、人間にとって何がよい食べ物で、何がよくない食べ物かを知らないために病気になってしまっています」

パート2実践編では、何をどのようにして食べ、どのように生活すればいいのかといったガイドが記されています。

氏の提唱する、健康に長生きするために必要な「正しい食事」「よい水」「正しい排泄」「正しい呼吸」「上手な休息、睡眠」「笑いと幸福感」。これらを念頭においてこの本の一部をご紹介します。

伝統食はなぜ体にいいのか

パート2でもドキッとするのは、やはりこれまで常識とされてきた食品が、実は、なるほど、という事実です。

それらの目次より抜粋してみましょう。

- インド人がガンジス川の水を飲めるのはなぜか
- 工場由来の食品に命は宿っていない
- ビニールハウス製野菜に欠けている大事な部分
- トランス脂肪酸の恐怖
- 電子レンジに抱く一抹の不安
- 白い食品（白米、白砂糖、精製塩）は体によくない食品
- 食品添加物の危険
- 低体温の人はがんになりやすい
- 便、尿、汗は毒素を排出する大切な仕組み

またしても目から鱗のお話が盛りだくさん。工場排水、洗濯水、糞尿などが垂れ流しのガンジス川の水、確かに私たちが飲めばその場でひどい下痢を起こすでしょう。しかし、インド人は平気です。

「それは、彼らが毎日〝自然の抗生物質〟を大量に摂取しているからだと考えられます。インド人が主食にしているカレーには、薬効成分を持つ香辛料や野菜がたくさん使われています。それらを毎日食べることでインド人は自らの免疫力を高め、過酷な自然環境のなかでも健康を維持していたのです。沖縄も、豚肉を大量に摂取しているのに長寿が多いのは、余分な油を落とす伝統的な調理法や、石灰質の大地から湧くミネラルたっぷりの水、太陽の光をふんだんに浴びた野菜、果物のおかげなのです。このように伝統食には先祖代々受け継がれてきた、その土地で人々が健康に生きるための知恵が盛り込まれているのです」

物も情報もなかった時代の食生活、伝統食に比べ、今は物も情報も多すぎます。私たちは、その中から本当にいいものを選ばなければならないのです。

食材の選び方
大地からの食、動物からの食、化学からの食

ではそのいいもの悪いものの区別はどのようにつければいいのでしょうか。

「食べ物というのは、野菜も動物も、みんな命の集合体なのです。しかし、現代の栄養価とカロリー中心の栄養学は、腐ったもの、死んだ食品でも、生きたものと同じカロリーだけでとらえています。今日、わたしたちが口にする食べ物は、その由来から3種類に分類することができます。ひとつは野菜、穀物、

海藻、キノコ類などの大地、二つ目は牛、豚、鶏、乳製品、魚介類などの動物、三つ目は人間が科学的に作った工場食品です。工場のものは、化学調味料、食品添加物、精製されたもの、人工甘味料と、それらのものが使われている加工食品です。大地はいくら食べても大丈夫。動物も量を控えれば大丈夫。しかし、工場由来のものは食べる必要はありません。なぜなら、工場で作られたものに命は宿っていないからです。工場由来のものは食べ物であっても、命を養うことはできないのです」

以前、ここでも紹介した「食品の裏側」（安倍司著）のことも新谷教授は取り上げ、添加物の怖さを強調しています。

さらに、つい先日、ミートホープ社が牛肉偽装事件で世の中を騒がせたように、加工食品に対しては行政のガイドラインもあいまいです。このような事件が起きるたびに、加工食品は食べないにこしたことはない、と思ってしまうのです。

生きた食品　死んだ食品

また、生きた食品、死んだ食品のなかで、白米は死んだ食品に入るともいいます。なぜなら、精白してしまうと穀物に含まれるはずの命が失われてしまうからです。白米を大地にまいても芽は出ないのがその証拠です。さらに電子レンジでチンして沸騰させたお湯を冷まして植物に与えると、その植物は数日で枯れてしまうそうです。やかんで沸騰させた水はちゃんと育つそうです。

「命を養うことができるのは命だけです」

この言葉は、本の中に頻繁に出てきます。

もしも冷凍していたご飯（玄米）を解凍したければ、蒸し器で蒸すこと。お米は玄米に、麦、副穀物を混ぜてみる。マーガリン、乳製品の代わりは、ハチミツやメープルシロップ、良質のピーナッツバター、胡麻ペースト、豆乳で。発酵食品はぬか漬けやキムチで。野菜はできれば無農薬有機野菜。乳製品も国産のいいものなら少量食べても、人間の体の免疫システムで防御できると言います。

「なにも松坂牛や神戸牛を買う必要はないのです。健康な生活を送っている牛かどうかなのです。安い牛肉はたいてい狭い牛舎でろくな運動もせず、餌は生命力を持たない配合飼料を食べて育った牛の肉です。病気が出るといけないからと抗生物質を常用していたかもしれません。そのような肉に保存料や発色剤がかけられていたとしたら、それはもう食品といえるものではありません」

高級な牛より健康な牛

大事なのは添加物がなく、フレッシュで、安全なもの。

「よく、そんな高価な無農薬の食生活は無理とか、お金に余裕のある人しか健康になれないのかと反論されるのですが、私たち消費者が安全な食品が欲しいと声を大にして言ってこなかったから、生産者も作ってくれないのです。安全な食品を本気で求める消費者が増えれば、安全な食品も増えるのです。そうすれば市場原理が働き、価格も下がってくるでしょう」

そうして、最後に氏は言います。

「体は人生の集大成、生き様が体に現れます。すでに衰えを感じている人も、すでに病気になってしまった人でも、体によいことを始めるのに遅すぎると言うことはありません。無理をすれば体は正直に反応し衰えますが、よいことをすればちゃんと回復してくれます。生活習慣病は、本当は自己管理欠乏病なのですから」

丹羽先生もよくおっしゃいます。人間の持つ治癒力を高めてあげること。そのために食事は命を養う大切なもの。いまからでも出来ることから改善を始めたいものです。

SODロイヤル愛飲者からのおたより

腰部背柱管狭窄症

◆良好

埼玉県　58歳　女性　主婦

昨年の8月に腰部背柱管狭窄症と整形外科の先生に診断されました。足の痺れとほてりが酷かったのですが、知人からSOD様食品を教えていただき、飲んで1週間で効果がでました。

1日3回3包ずつの服用でしたが、11月下旬より、1日6包にしましたところ、12月に入って足にピリピリというような痺れが出ましたので、また、9包に戻しました。そうしましたら痺れ感はほとんどなくなりました。

健康を考えてはいましたが、具体的にサプリメント等は摂っていませんでしたので、最初にしてとても良いものに出会うことが出来、感謝しております。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

湿疹・皮膚の痒み

◆良好

福岡県　75歳　女性　会社員

70歳の頃、体の上半身に赤く痒い湿疹が出来、皮膚科へ通院し、少しは改善しましたが、これ以上治せないと医者に言われ困っていました。そんな時、近くの○○薬局のチラシ広告を見て、良さそうと思い、薬局に行き、説明を聞いて、丹羽先生のSOD様食品を購入し、朝、昼、夜3回飲み、4日目から痒みもとれ、改善し助かりました。

知人の90歳の男性で、同じような症状の方が、私の話を聞き、すぐにSOD様食品を飲み始め、やはり4日目から痒みがなくなり、大変良くなったと喜んでおられました。

本当に良いものを研究開発された事に感謝いたします。

犬の白内障

◆楽しみにしています

大阪府　柴犬　オス　9歳11ヶ月

いつもシャンプーしてもらう所で預かってもらう事がありました。

そこでも柴犬を飼っており、白内障だったそうです。

その子が「動物用のSOD（SOD顆粒獣医師用）」を飲み続けたところ、きれいな黒い目になったそうです。私も見ました。

私の飼う柴犬よりも年上なのでビックリしています。私は楽しみに飲ませていますが、愛犬は嫌がります。

毛並みが良くなったように思います。

◇編集部より

最近、お問い合わせの中で、薬のように『飲む』とおっしゃる方がいらっしゃいます。

丹羽先生によりますと、咀嚼－できるだけよく噛んでお召し上がりください、とのことです。

ご不自由な場合にはお茶や牛乳と一緒にお摂りください。

ペット用SOD食品は市販されていません。お取扱いの獣医師先生につきましては丹羽メディカル研究所までお問い合わせください。

SOD 様食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しんでいる方たちが少しでも早くいい治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205
日本SOD研究会　藤沢宛
TEL 03－5787－3498
までご一報ください。

●SOD様作用食品とは●
丹羽博士の開発

ＳＯＤとは、スーパーオキサイド・ディスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康のカギを握る物質として「活性酸素」と「ＳＯＤ」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くＳＯＤという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のＳＯＤだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにＳＯＤという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽ＳＯＤ様作用食品です。

開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにＳＯＤの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った〝自然の摂理〟は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。〝病気は自分が治すもの〟私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、ＳＯＤなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです

丹羽療法を知る一冊
◆ブックガイド◆

「がん治療　究極の選択」　講談社
「丹羽ＳＯＤ様作用食品 摂取者の体験報告」日本ＳＯＤ研究会
「活性酸素で死なないための食事学」　廣済堂
「丹羽博士の正しいアトピーの知識」廣済堂
「天然ＳＯＤ製剤がガン治療に革命を起こす」　廣済堂
「白血病の息子が教えてくれた医者の心」　草思社
「安心の医療・本当の健康」　みき書房
「クスリで病気は治らない」　みき書房
「医は仁術なり」　至知出版
「丹羽療法 全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」　リヨン社
「ＳＯＤ様作用食品の効果」　小冊子

あしたも元気（No92）
サプリのメリット

最近では「サプリメント」という言葉がすっかり定着していて、テレビや雑誌などでもよく話題になっています。「サプリメント」という言葉は、もともと英語の「Dietary Supplement」（ダイエタリーサプリメント）の略で、意味としては**「不足しているものを補給する」**ということです。

アメリカでは、サプリメントは食品と医薬品の中間に位置付けされていますが、日本では「食品」です。医薬品や医薬部外品、ドリンク剤とは違います。

サプリメントは、一般的には健康維持や積極的に健康を作るといった目的で用いられます。

そして生活習慣病などを予防したり、ダイエットの目的にも用いられます。

サプリメントは通常の食品とは形態が異なり、顆粒状やカプセル、粒状、飲料タイプなどの食品のことをいいます。

食品には、

●一次機能…生命維持のための栄養機能
●二次機能…食事を楽しむための味覚機能
●三次機能…体調のリズム調整や生態防御、疾病予防、疾病回復、老化防止などの健康を維持する体調調整機能

の3つの機能がありますが、サプリメントは三次機能にあたります。

サプリメントが必要なわけ

人は元来、食事から栄養素を摂取するのが基本です。

しかし近年、アンバランスな食生活によって栄養は偏っています。レトルト食品や加工食品、コンビニのお弁当、外食など…必要な栄養素を摂取することは難しいのです。

またきちんと食事をしていても、環境や土壌の変化によって、食材自体に含まれている栄養素が不足していることもあります。

さらに、現代社会でのストレスの多様化や健康状態によっても、体内で吸収されにくい場合があるようです。

近年では、食生活の乱れやライフスタイルの多様化による生活習慣病やストレスなどが増加していることが問題であり、栄養の偏りをなくすことは容易ではなく、食生活を改善することはなかなか困難なようです。いつまでも健康で若々しくいたいということから、サプリメントの需要はますます高まっているようです。

メリット

サプリメントは手軽に不足している栄養素を摂取することができます。携帯もできるのでいつでも摂取することができます。

サプリメントは医薬品ではないので効能を表示することはできませんが、サプリメントはきちんと研究されて結果を出しています。

メリット

①手軽に摂取することができる
②普段摂取、吸収されにくい（例えば、抗酸化物質）栄養素を容易に摂取することができる
③「毎日の習慣」にすることができる
④天然成分が多いので、安心して利用できる
⑤長期的に利用できる
⑥生活習慣病やストレスなどによいとされる
⑦健康維持、疾病予防、老化防止の役割を果たす

サプリメントは医薬品と違い、1回2回で効果や結果がでるというわけではありません。

毎日の食事と同じように、続けて摂取することが大切です。

【栄養士　高橋広海】

丹羽博士の著書

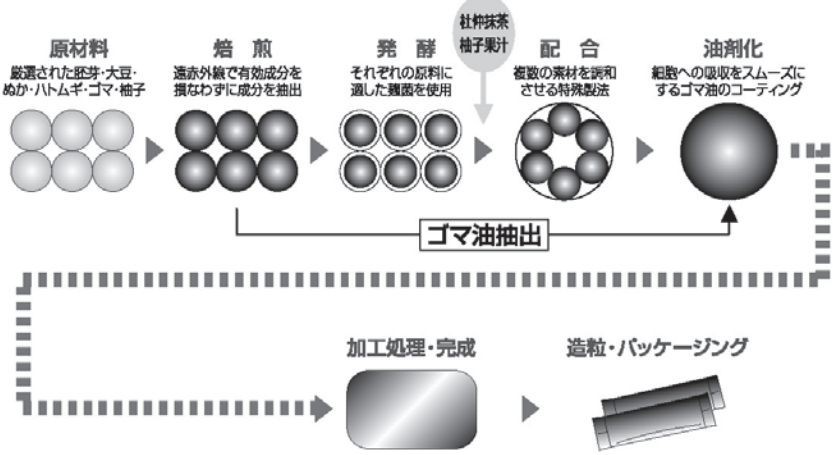
丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介します。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

「安心の医療・本当の健康」（みき書房）
「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」（日本SOD研究会）
「クスリで病気は治らない」（みき書房）
「白血病の息子が教えてくれた医者の心」（草思社）
「活性酸素で死なないための食事学」（廣済堂）
「丹羽博士の正しい『アトピー』の知識」（廣済堂）
「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」（廣済堂）
「医は仁術なり」（致知出版）
「丹羽療法『全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由』」（リヨン社）
新刊「がん治療　究極の選択」（講談社）
「SOD様作用食品の効果［小冊子］」リーフレット全20巻

SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて

日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご要望の方は、最寄りの取扱店または、
日本SOD研究会
TEL　〇三－五七八七－三四九八
までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品